#122 学び 2 聖書的な終末論と終末期の聖書預言② 2018/12/01 公開
【患難時代のその 3 つの目的】（音声のみ） 東住吉キリスト集会　高原 剛一郎 氏
----*-----*-----*-----*-----*-----*-----*-----*-----*-----*-----*-----*-----*-----*----

私、小学生の時の 8 月 31 日の事を覚えていますが、本当に憂鬱でした。宿題してへんから。
だけど、これからワクワクする事が待っている人は、今は少々問題があるとしても、やっぱり明るいし、立ち向かって行こうという意欲が湧き易いし、色々余裕や耐久性が出て来るんじゃないかと思います。

では、クリスチャンの近未来に待ち受けているものは何か? クリスチャンとは、嫌な事が待っている人なのか? それとも究極にいい事が待っている人なのか? 究極に喜ばしい事が待っているんですよね。
私はその事を、ほんとに正確に、もっともっと深く知りたいと思っているんです。というのは、兄弟姉妹もそれを信じていると思いますが、本当にそれが分かっていたら、もうちょっと幸せそうな顔するんちゃうかなと。世の中暗いのは未信者だけじゃない。はっきり言って、クリスチャンでも「大丈夫か?」みたいな。

それはなぜかというと、結局今の事しか見えないから。次に準備されているものが、頭では分かっているけどリアル感がない。なぜリアル感がないかというと、漠然としか信じてないので、ボンヤリとしか分からない。この漠然・ボンヤリが、クリアになり、力になるためには、神様が私たちのために準備して下さっている結末-祝福を、御言葉によって正確に知る必要があるんです。そのためには御言葉の学びがすごく大事。その意味で、今回、とても長い時間の学びの機会を与えて下さった事を心から感謝しています。

今日の 2 回目のテーマは、「患難時代が許されている目的」について。
それを知る事が、今の私たちの生き方の動機付けになるかもしれないからです。

1 コマ目で説明したように、終末のタイムテーブルですが、ある時イエス様が空中まで来て、クリスチャンを携挙して下さいます。携挙して、すぐに患難時代が始まるかは分からない。すぐのケースもあり得ます。しかし、何カ月後・何年後・十何年後・何十年後もあり得る。私は何十年後とは思わないんですけど。

患難時代がいつ始まるかというと、反キリストと呼ばれている独裁者が、イスラエルと有効期間 7 年間の安全保障条約を結ぶ時。これがカウントダウンのスタート。
7 年間の期間にも拘わらず、反キリストはちょうど 3 年半/1260 日目にその契約を破ります。そして突如、エルサレム神殿のてっぺん/頂に自分の偶像を建てて「我こそは神である。全人類は私を礼拝しなければならない!」と強要し、「言う事を聞かない者は誰も、売る事も買う事も出来なくする」と書いてあります。

その後の 3 年半は、前半の 3 年半よりももっと厳しい状態です。前半だけでも大変。前半だけでも、世界人口が半分になると書いてあるから。今の世界人口が 70 億としたら、たった 3 年半で 35 億人が死ぬんですよ。

残った 35 億人が、後半の 3 年半でまた半分に減ります。この時に起こるのは戦争だけじゃない。おかしなパンデミック・伝染病・現代医学で治らないようなウィルスや飢饉や天変地異、色んなものが次々に起こる。この恐るべき時代は、人類史上最も恐ろしい時代です。「ヤコブの苦難の日である」と書いてあって、人類にとっても苦しいけど、1 番ひどい目・苦しい目にあうのはユダヤ人。
「ヤコブの苦難の日」から患難という言葉が派生して、患難時代と呼ばれています。

患難時代は、やがてキリストの地上再臨によってピリオドを打ちます。
そして 75 日間、諸国民の裁きがあった後で千年王国が始まって、最終的に新天新地です。

なぜ患難時代というものが許されるのか? 患難時代にはどんな目的があるのか?
3 つあります。それを、マタイ 24 章を中心に考えて見たいと思います。

ちょっと老眼鏡に掛け直します。最近、老眼鏡って言わないのね。お手元用と言うそうです。そうすると皆さんのお顔が見えない。不便や。でも見ているのは分かるから、これで行きたいと思います。

マタイ 24:2-3 すると、イエスは弟子たちに言われた。「あなたがたはこれらの物すべてを見ているのですか。まことに、あなたがたに言います。ここで、どの石も崩されずに、ほかの石の上に残ることは決してありません。」イエスがオリーブ山で座っておられると、弟子たちがひそかにみもとに来て言った。「お話しください。いつ、そのようなことが起こるのですか。あなたが来られ、世が終わる時のしるしは、どのようなものですか。」

イエス様が弟子たちと共に都上りされた時、弟子たちはヘロデが建てた豪華絢爛な第 2 神殿を見て、「スゴイ! なんて豪華なんだ!」とウットリするんです。ガリラヤの人たちが、鹿児島の田舎から東京に行って、お上りさんみたいに「わー」みたいな感じ。鹿児島の人がいたら赦して下さいね。青森にしよか? どこでもええねん。とにかく田舎から大都会に出て来て、「エルサレムの神殿、こんなにすごい!」と感動している時、イエス様が「石が積み上げられているエルサレム神殿、全部バラバラになるんだぜ。」
石が他の石の上に残る事はない。全部剥がされて、木っ端微塵になる。つまり、神殿破滅預言です。

でも弟子たちは、余りにもびっくりして会話が続かなかったみたいで、後になって、イエスがオリーブ山で座っておられると、弟子たちがひそかにみもとに来て言った。「お話しください。」と言って 3 つの質問をしました。

①いつ、そのようなことが起こるのですか。いつ、エルサレムが破滅するのですか? この神殿が破壊されるのはいつですか? どんな前兆ですか?

②あなたが来られる時のしるしは、どのようなものですか。地上再臨の時には、どんな前兆・どんな事が起こっているんですか?

③世が終わる時のしるしは、どのようなものですか。世の終わりとは患難時代です。患難時代の前兆と、患難時代の中で起こる事は、どんなものですか?

この 3 つの質問の内の①を、キリストは答えてません。「エルサレムはいつ破壊されるのか」という質問に対しては、ルカの福音書の中にあるんです。マタイ書ではお答えになっていません。

さて、②キリストの地上再臨、それに先立つ世の終わり（患難時代）のしるしは何か? そして、患難時代にはどんな事が起こるのか?という事が 24 章を中心に、また 3 つの事が解説されるのです。

患難時代が許される理由１；世界的スケールで大リバイバルを起こすため。「患難時代には、もう救われない」と思うのは大間違いで、患難時代は人類史上、どの時代と比較しても比べものにならないほど、たくさんの人が救われる時代です。

マタイ 24:14 御国のこの福音は全世界に宣べ伝えられて、すべての民族に証しされ、それから終わりが来ます。
患難時代の最後に至るまでに、全人類が福音を聞きます。この箇所は、海外宣教に送り出したり、そういう事を語る時に引用される事が多いけど、正確には、患難時代の伝道の事を限定で語っているんです。
なぜそう言えるかというと、御国の福音と書いてあるから。今私たちが信じた、宣べ伝えている福音は「恵みの福音」です。ここでは、御国のこの福音は全世界に宣べ伝えられて、と書いてある。

「御国の福音」と「恵みの福音」は違うんですか? 違いがあります。「恵みの福音」は「主イエスを信じなさい。そうすれば、あなたは神の子とされ、天に引き上げられて、父の家に住みます。」
「御国の福音」は「主イエスを信じなさい。そうすれば、あなたがたは苦難を辿っても、最後は千年王国に入ります。」マタイの福音書で「御国」と言う時、大抵は千年王国/メシア的王国を指します。この御国の福音が宣べ伝えられるのは、教会時代ではありません。患難時代に入ってから。
だから、ここで言っているのは、患難時代に限定していると分かるわけですね。

ところで、御国のこの福音は全世界に宣べ伝えられて、すべての民族に証しされ、と書いていますが、全世界の全ての国民に伝えてくれる人って、一体誰ですか? 教会は、もういないんですよ。
教会がいないのに、誰が全世界に出て行って、御国の福音を伝えてくれるのか? それは、御国の福音で主人公になる民族の中から救われた人たち。御国の千年王国の主人公はユダヤ人/イスラエルです。

イスラエルの中の「残りの者」と言われるイエス・キリストを信じる人たちが、世界中に出て行って福音を語ってくれます。もう少し分かり易く言うと、144,000 人のユダヤ人伝道者が患難時代の前に起こされます。彼らは 144,000 人のパウロだと考えて下さい。パウロ、144,000 人おったらすごいで。

交通手段がしけた状態の初代教会の時、パウロとバルナバとシラス、パウロクラスの、ユダヤ人として聖書の読み方を訓練されている人たちが「イエスはメシアだった」という事が分かって、世界を回って伝道してくれましたよね。異邦人では、信じてすぐには伝道者になれない。聖書の知識がないから。
ユダヤ人は違います。訓練されているのに、ただ「イエスがメシアだ」と分からなかった人たちが救われて、そして世界中に出て語ってくれるのです。

どうしてユダヤ人が選ばれたかというと、恐らく、世界で一番、散り散りバラバラになっている民族だからです。だから、日本に伝道するユダヤ人伝道者は、多分日本に住んでいるユダヤ人で救われた人じゃないですか? 外国語を新たに学ぶのではなくて、世界中の言葉をもう知ってますねん。

そこで疑問は、この 144,000 人は、どないして救われたんや? 世界中が 144,000 人によって救われる。それは分かった。だけど 144,000 人はどっから、どないして起こされて来たの? だって、教会は無いんだから。解説してくれる人がいないのに、144,000 人のユダヤ人は、どうしてイエス様を信じる事が出来たんでしょう? もちろん、教会がいなくなっても、教会が残した色んな霊的遺産があります。終末論に関する学びの本や注解書や。

実は皆さん、私は YouTube というのに動画をアップしておりまして、もう 120 本くらい。一番多いのは 1 つのコンテンツで 70 万件くらい。だから、ある方は私をユーチューバーと思っている。それは違うと。これを残していったらいいなと思って。地上に残していく置き土産みたいなものです。福音を宣べ伝えて行く。それを記録として残しておきたいという願いがあります。

それにしても、まずユダヤ人たちはイエス様を信じないですよ。なぜ信じないかというと、残念な事ですが、ユダヤ人はイエスの御名によって迫害されて来たからです。皆さん、聞いた事ありませんか?
「キリスト殺しの民!」「イエスを十字架にかけたのはユダヤ人だ!」「ユダヤ人は呪われた民だ!」
世界中、発展途上国でも先進国でも、どこでも反ユダヤ主義があって、日本でも「ユダヤが地下経済を操って、陰謀で世界を動かしている」みたいな事を言う人が未だにいる。そんなんじゃないですよ。

そのように、イエスの名によって迫害されたり、散らされたり、弾圧されたり。だから、ユダヤ人にとって「イエス」は呪われた言葉なんです。ヘブライ語でイエスは「イェシュア」ですが、ユダヤ人は「イェシュ」と言います。イェシュアは「主は救い」という意味ですが、イェシュは「呪い」という意味。
ユダヤ人にとっては呪い。これがイエス。だから近づこうとしないし、新約聖書を読むなんてあり得ない。そんな彼らが何かの拍子で聖書を読み出し、新約聖書に立ち返って行った時、本当に救われて行くんですよ。今、それがたくさん起こっています。

私は来年（2019）2 月にアウシュビッツに行きます。そこからイスラエルに行って、ユダヤ人でイエス・キリストを信じている人たちと交わって帰って来ます。今そういう事が起こっているのは、やっぱりインターネットが発達したので、ユダヤ人が異邦人の教会を訪問するのは抵抗があっても、ネットならクリック一発で、何喋っているかが分かるんですよね。これはユダヤ人が福音に近づいて行くのに、ものすごくプラスになっていると思いますが、もっと決定的な事があるんです。

旧約聖書の最後、**マラキ 4:5-6 見よ。わたしは、主の大いなる恐るべき日が来る前に、預言者エリヤをあなたがたに遣わす。彼は、父の心を子に向けさせ、子の心をその父に向けさせる。それは、わたしが来て、この地を聖絶の物として打ち滅ぼすことのないようにするためである。**

主の大いなる恐るべき日とは患難時代の事です。だから、患難時代の前夜/直前に起こる事の預言。
何をなさるかというと、預言者エリヤをあなたがたに遣わす。
預言者エリヤは旧約時代に携挙された 2 人の内の 1 人です。エリヤはエリシャが見ている前で携挙されましたね。そのエリヤが患難時代の前にイスラエルに来ます。

彼（エリヤ）は、父の心を子に向けさせ、子の心をその父に向けさせる。
ユダヤ人は家族をすごく大事にします。毎週金曜日の日没から土曜日の日没まではシャバット（安息日）ですが、この時は何が何でも帰ります。そして家族と一緒に過ごすんです。
社会人になったら晩御飯一緒に食べるの、難しくないですか? 或いは日曜日、家族でお食事なさってますか? 日曜日も集会の用事や何や忙しくて、家族全員と顔合わせるのも、中々難しいかもしれませんね。

ユダヤ人は、何が何でも家族第一主義。家族を大事にするユダヤ人が「これだけは家族として受け入れられない!」というのが、息子・娘がクリスチャンになる事。或いは父・母のどちらかが、もしくは両親がイエス・キリストを信じる事。

僕の友人に、南アフリカからイスラエルに帰って来たユダヤ人がいて、ビリーバー（クリスチャン）になったんです。どうなったか。息子がイスラエルの司法省に訴え出て有罪ですよ。
ユダヤ人の家族をバラバラにする最大のダメージ、それは、家族の誰かがイエス様を救い主として信じる事。もし家族に信じる人が出たら、新聞に葬式の広告を出す人もいます。「もう、こいつは死んだ。親でも子でもない!」と勘当するのですね。

ところが、父の心を子に向けさせ、子の心をその父に向けさせる。メシアの事でバラバラになっている家族を完全に 1 つにするための天的なしるし。それは、エリヤがもう 1 度来る事です。あの旧約時代のエリヤがもう 1 度イスラエルに現れて、「あなた方が偽預言者だと思っているイエスは、実はメシアなのだ」という事を教えるのです。「そうか!」と 144,000 人のユダヤ人が主に向くきっかけの 1 つは、紛れもなくこれです。

彼らは全世界に出て行って、全ての造られた者に福音を伝えてくれるのですが、伝えた結果どうなると思いますか? 日本は伝えても伝えても、ほんとに救われない。僕がクリスチャンになりたての時、日本のクリスチャン人口は 1%と言われてました。それから 40 年、未だに 1%。どうなってるの?
私の周り、救われた人たちはもっと増えてるはずやと思うんですけど、そうじゃないみたいね。それを考えると胸が苦しくなりますが、もちろん諦めてませんよ。主が偉大な事をして下さると信じています。

患難時代にユダヤ人が語る福音を聞いた人たちがどうなったか? 黙示録 7 章に出て来ます。
黙示録 7:4 私は、印(いん)を押された者たちの数を耳にした。それは十四万四千人で、イスラエルの子らのあらゆる部族の者が印(いん)を押されていた。
12 部族から 12,000 人ずつが救われて、144,000 人がパウロのような伝道者になりました。

その結果、**黙示録 7:9 私は見た。すると見よ。すべての国民(くにたみ)、部族、民族、言語から、だれも数えきれないほどの大勢の群衆が御座の前と子羊の前に立ち、白い衣を身にまとい、手になつめ椰子の枝を持っていた。**

黙示録 7:14 そこで私が「私の主よ、あなたこそご存知です」と言うと、長老は私に言った。「この人たちは大きな患難を経てきた者たちで、その衣を洗い、子羊の血で白くしたのです。」

9 すべての国民、部族、民族、言語から、だれも数えきれないほどの大勢の群衆とは、14 大きな患難を経てきた者たち。患難時代に救われた人たちです。患難時代に救われる人たちの数は、だれも数えきれないほど多い。患難時代は人類歴史上大リバイバルのピーク。ものすごくたくさんの人が救われるのよ。

なぜですか? 次から次へと不安な事が起こるから。戦争・飢饉・水が飲めない・食糧難。色んな事がどんどん出て来る中で、人々は不安になるでしょう。すると 144,000 人が「あなた方が経験している事を、前もって全部書いている本が黙示録です!」。今経験している事が前もって全部書いてある書物を、ユダヤ人の解き明かしで聞いた時、その説得力って半端ないと思いますよ。彼らはそこで信じます。

それだけじゃなくて、信じる人の中には「恵みの時代」に信じなかった人たちもいると思う。
クリスチャンホームに育ちながらイエス様を拒否したままの場合、携挙の時、彼らは残ります。クリスチャンの家族だけがいない。「あの人らの言うてた事、ほんまやったんや!」と思うでしょう。
或いは皆さんの友人で、「彼らが言ってたのは本当だったんだ!」と思う人は必死に求めると思います。

でも、それはどんな人かというと、前もって聞いている人だけです。前もって聞いていたから「本当だったんだ!」となる。だから、今聞いても聞かなくても、信じても信じなくても、宣べ伝えておく必要があるのです。今語っておいたら、やがて実を結ぶ事があるからです。

多くの人たちが救いに導かれるために患難時代がある。なので、神様の裁きには恵みの面があるんですね。偉大な方です。

患難時代が許される目的２；地上から悪を一掃するため。
マタイ 24:37-39 人の子の到来（地上再臨）**はノアの日と同じように実現するのです。洪水前の日々にはノアが箱舟に入るその日まで、人々は食べたり飲んだり、めとったり嫁いだりしていました。**
洪水が来て、すべての人をさらってしまうまで、彼らには分かりませんでした。人の子の到来もそのように実現するのです。

洪水が来た時、箱舟に入らなかった全ての人はさらわれてしまいます。患難時代に、御国の福音を聞き入れなかった全ての人はさらわれて滅びます。生き延びても、患難時代の後に滅びるのです。

地上再臨があるまで、人々は食べたり飲んだり、めとったり嫁いだりと書いてますが、患難時代に食べたり飲んだりしようと思ったら、右手か額に 666 という獣の刻印を受けない限り、誰も売る事も買う事も、経済活動も出来ません。こういう事が出来る人たちは皆、反キリストを信じた、クリスチャンではなくてアンチクリスチャン。反キリストの信者。
患難時代には、イエスを信じるのか、反キリスト信者になるのか、2 つに 1 つ、どっちかです。

反キリスト信者は、患難時代に救われる人たちを大弾圧します。そうしないと自分たちの身が危ないから。御国の福音を聞いていながら信じなかった人は皆、惑わしを信じる力がその人の中に入って、抵抗できなくなります。そう書いてあります。この事が大きな問題なんですね。
反キリストが牛耳っている世界を一掃するために患難時代があるんです。

今（2018）南シナ海では、中国が自分の領海でもないのに埋め立てて、7 つの人工島をどんどん造って行くんですね。弱い東南アジアの国が何や言うても、もう何にも関係ない。自分の領域ではないにも拘らず、いくらでも侵略して、支配権を確立しようとしている。

そもそも、この地球のオーナーは神なのに、悪魔はこの世を侵略したんです。自分の物でないにも拘らず、自分の物のように支配している。それをひっくり返すためには、悪魔よりも強い力が必要です。
だから地上再臨されるのです。取り戻すために。

例えば、古い町を新しい近代的な町にしようとするなら、まず古い町をスクラップにして、更地にして新しい物を建てます。反キリストが造ったこの世界の上に、千年王国を建てる事は出来ません。千年王国という聖い国を建てるには、反キリストのシステムを全部除去しなければならない。その除去する期間が患難時代です。

患難時代については旧約聖書にいっぱい書いてありますが、1 か所だけ見ておきましょう。
イザヤ 24:19-20 地は割れに割れ、地は破れに破れ、地は揺れに揺れる。地は酔いどれのようによろめき、仮小屋のように揺れ動く。地の背きはその上に重くのしかかり、地は倒れて、再び起き上がれない。
患難時代には大きな地震が何度も起こりますが、ここの描写は、地が揺れる事で全てが瓦礫になる。神様の揺り起こしがある。患難時代の預言です。

患難時代の目的は、**イザヤ 24:21 その日、主は天では天の大軍を、地では地の王たちを罰せられる。**
その日とは患難時代。天の大軍とはサタンと悪霊の一団の事。空中の権威を持つ支配者たちを、空中から引きずり降ろして地面に叩きつけるための患難時代。
それだけではなく、地では地の王たちを罰せられる。悪魔・反キリストに従った地上の王たちを全部罰し、除去するために必要なのが患難時代です。

イザヤ 24:22 彼らは、囚人が地下牢に集められるように集められ、牢獄に閉じ込められ、何年かたった後に罰せられる。
千年王国の間、悪を行った者たちが全て除去されて、サタンと悪霊たちは穴の中に放り込まれているので、千年王国は非常に平和なんです。このように悪を一新しない事には、新しいものを造り出す事が出来ない。サタンという霊的な造反者・この世という悪のシステム・人間の罪という悪の本性、これを一掃するために、神様は患難時代を用いられるという事ですね。

患難時代の目的 3；イスラエルが霊的に回復するため。今ユダヤ人の中でイエス様を信じている人たちがいるけど、それは極々例外的で、民族としての単位で見るならば、ユダヤ人はイエス様を拒んだままです。でも、このユダヤ人がイエス様を受け入れる時が来ます。それが患難時代なんですね。

マタイ 24:7 民族は民族に、国は国に敵対して立ち上がり、あちこちで飢饉と地震が起こります。

世の終わりのしるしについて色んな事を語られた後で、**マタイ 24:8 しかし、これらはすべて産みの苦しみの始まりなのです。**
産みの苦しみとは陣痛の事。陣痛は私、経験した事がないし、これからもないでしょう。したら怖いわ。陣痛は出産に伴う痛みですね。聞いたところによると、基本的に周期的だそうです。周期的ですが、どんどんひどくなり、痛みのピークに達すると、次の瞬間に赤ちゃんが産まれる。

患難時代は「7 つの封印」「7 つのラッパ」「7 つの鉢」。同じような災害がより深刻になって、周期的に起こって行くという陣痛期間の困難が患難時代。患難時代は結局何か？ 千年王国をオギャーと産まれさせるための陣痛・出産期間です。そして、神様との関係が切れた状態のイスラエルを霊的に回復させるための期間。イスラエルが、真にイスラエルとして生まれ変わるための陣痛期間が患難時代なんですね。

イスラエルが誕生して回復すると、イエス様が王としてお越しになって、神の国千年王国が始まるのですが、具体的にどんな条件が揃ったらキリストが地上再臨するか、マタイ福音書に書いてあります。

マタイ 23:37 エルサレム、エルサレム。預言者たちを殺し、自分に遣わされた人たちを石で打つ者よ。わたしは何度、めんどりがひなを翼の下に集めるように、おまえの子らを集めようとしたことか。それなのに、おまえたちはそれを望まなかった。

これはひと言で言うと「メシアはエルサレムに来た。しかしイスラエルはメシアを拒んだ。拒否した。」メシアはユダヤ人を集めるために来たのに、ユダヤ人はメシアを「要らない。イエスはメシアなんかじゃない。救い主じゃない」と拒みました。

その結果、**マタイ 23:38 見よ。おまえたちの家は、荒れ果てたまま見捨てられる。**
おまえたちの家とは、エルサレムにある神殿の事。神殿というのは神の家。ところが、おまえたちの家。

なぜお前たちの家かというと、**マタイ 24:1 イエスが宮を出て行かれると、**
メシアが宮に来ているのに、神殿の中に自分の居場所を見つける事が出来なかったので去って行った。「今や、この神殿は神の宮ではなく、おまえたちの家にすぎない。おまえたちは本当の主（あるじ）である臨在を示すメシアを追い出したのだ。」

いのちのメシアを追い出したのだから、このがらんどうの神殿は破壊されます。

イエス様が十字架にかかったのはAD30年。40年間猶予期間がありましたが、ユダヤ人は民族的にはノーでしょ。その結果AD70年、ローマによってエルサレムは炎上しました。そして、ユダヤ人は100万人いたのに90万人殺されて、残りの9万7千人が奴隷として世界中に散らされて行ったんです。

ユダヤ人がこの地から散らされた結果、留守になっている間のイスラエルの地は荒れ果てた。荒れ地。耕す人がいないので荒れ地になった。それが、見よ。おまえたちの家は、荒れ果てたまま見捨てられる。神様から見捨てられた理由は、神が遣わしたメシアを拒んだから。では、ずっと未来永劫、ユダヤ人は見捨てられたままなのか? そうではない。なぜなら、神様はアブラハム契約を覚えておられるから。
やがて、メシアとユダヤ人が和解する時が来ます。それはいつ?

マタイ23:39 わたしはおまえたちに言う。今から後、「祝福あれ、主の御名によって来られる方に」とおまえたちが言う時が来るまで、決しておまえたちがわたしを見ることはない。
「祝福あれ、主の御名によって来られる方に」は詩篇118篇26節です。後で見ておいて下さい。
＊〔詩篇118:26 **祝福あれ 主の御名によって来られる方に。私たちは主の家からあなたがたを祝福する。**〕

これはメシア預言といって、ユダヤ人がメシアに向かって叫ぶ時の決まり文句なんです。
「あなた方は、今の段階ではわたしを救い主として受け入れないけれど、あなた方がわたしに向かって、『主の御名によって来られる方、イエス様! あなたこそ本物のキリストでした!』と言うようになったら、あなた方はわたしを見ます。」「イエスこそキリストだ」という事が民族的スケールで分かったならば、その時、イエス様はユダヤ人の前に現れます。

決しておまえたちがわたしを見ることはないというのは、「祝福あれ、主の御名によって来られる方に」と言ったら「必ずわたしを見る」という事ですよね。つまり肉眼で見るんです。
携挙の時の空中再臨は、地上の人は誰も分からないですよ。パッとこっち見てパッとこっち見たら、もうクリスチャンいてへん。「今度11月11日に特別集会があるから来てね」とクリスチャンが言ってて、「俺、用事あるし」とパッと見たら、もういない。その時携挙だったらね。引田天功か?!みたいな。イリュージョンか?! 手品違います。本当に引き上げられてしまう。

だから空中再臨の時は、人々は空中まで下って来られたキリストを目で見る事は出来ません。ところが地上再臨のキリストは、肉眼で見える形で来るんです。いつ来ますか? ユダヤ人が民族単位で「イエスはキリストだった!」と分かった時。いつ分かるかというと、地上再臨の3日前。「そんな事、どこに書いてあんねん?」と言われそうなので見ておきましょう。

小預言書、読む事が少ないじゃないですか。私は小預言書を学んだ事が殆どなかったんです。それで今のライフワークは、小預言書を1節1節やる事です。1つ発見がありました。

黙示録は解釈が難しいですよね。何で難しいかというと、小預言書を読まないから。実は、黙示録は小預言書の引用文だらけ。ヨハネは「黙示録の読者は、当然小預言書を読んでいる」という前提で書いている。だから、それをすっ飛ばして読むから、何か分かったような、分からないような。でも分かるための資料って、旧約聖書の中にあるんですよね。

ホセア書も小預言書の1つで、患難時代の事がずっと書いてあります。
患難時代の終わりの事が、**ホセア5:15 わたしは自分のところに戻っていよう。彼らが罰を受け、わたしの顔を慕い求めるまで。彼らは苦しみながら、わたしを捜し求める。**

ユダヤ人が罰を受け、苦しむ期間が患難時代。彼らが罰や苦しみを通して、わたしの顔を慕い求めるまで、わたし（神）は自分のところ（天の至聖所:しせいじょ）に戻っていよう。

神ご自身が天の至聖所を去って地上に来られた事を受肉（じゅにく）と言います。人となってこの世界に来られた。受肉してまでイスラエルに来られたのは、彼らがメシアを受け入れるためだったのに、その時のイスラエルは拒みましたね。それで、メシアはオリーブ山から昇天して天に戻られました。
これが自分のところに戻っていようという意味です。今も自分のところ（至聖所）に戻っておられます。

だけど、「彼らが罰を受けて、『イエスこそキリストだ』とわたしの顔を慕い求めるならば、また来ます。」つまり、キリストが地上再臨される条件は、イスラエルがメシアを拒否している罪を悔い改めて、「イエス様、あなたこそ救い主でした」と言うようになる事。

それはいつかというと、**ホセア 6:1 さあ、主に立ち返ろう。**
患難時代の苦難の中、ユダヤ人は「なぜ我々は上手くいかないんだろう? 反キリストと契約を結んだ時は、これで安全だと思ったのに、それを保証したあの男が我々を不幸のどん底に突き落とした。こんなに上手くいかないのは、どこかで致命的な間違いを犯したのではないか? 一体どこで?」

患難時代、「144,000 人のユダヤ人」と「2 人の証人」と呼ばれている強力な証し人が出て来ます。
「144,000 人のユダヤ人」は異邦人向けの患難時代の伝道者。「2 人の証人」と呼ばれている人はユダヤ人向けの預言者。これはモーセとエリヤではありません。その時に起こされる人たちです。
彼らの伝道を通して、「そうか。間違っていた。彼らの言っていた通りだった。さあ、主に立ち返ろう。」

ホセア 6:1-2 主は（患難時代に）**私たちを引き裂いたが、また、癒やし、**（患難時代に）**私たちを打ったが、包んでくださるからだ。主は二日の後に私たちを生き返らせ、三日目に立ち上がらせてくださる。私たちは御前に生きる。**
二日の後に。ユダヤ人は 2 日間断食して悔い改めます。それがゼカリヤ書 12 章-14 章に書いてある事。そして、三日目に地上再臨のキリストが来ます。

ホセア 6:3 私たちは知ろう。主を知ることを切に追い求めよう。と言って「イエス様こそ主だった」と告白した時、その 3 日目にキリストが地上再臨して、ユダヤ人を迎えて下さるのです。

ダニエル書 9 章を開けて下さい。ダニエル書 9 章の「70 週の預言」はものすごく深い。これだけで 1 時間半要るんですよ。これだけを語った動画（#119）を昨晩アップしたので、興味のある方はご覧下さい。

それをはしょって、**ダニエル 9:24 あなたの民とあなたの聖なる都について、七十週が定められている。**
七十週。週は 7 の単位なので、70 週は 70×7 で 490 年。その時間のタームの中で、ユダヤ民族とエルサレムの復興の預言は全部実現するという預言です。

この預言のラスト 1 週が、**ダニエル 9:27 彼**（反キリスト）**は一週の間、多くの者と堅い契約を結び、半週の間、いけにえとささげ物をやめさせる。**

反キリストは一週の間（7 年間）、イスラエルの多くの者と堅い契約を結ぶ。この契約合意が患難時代のスタートです。多くの者だから全員ではない。殆どは反キリストとの契約に賛成しますが、一部反対する人たちがいる。それがイエスを信じるユダヤ人たちです。

多くの者と堅い契約を結び、半週（3 年半）の間、いけにえとささげ物をやめさせる。これは後半の事。前半の 3 年半は、いけにえを献げさせている。という事は神殿が再建されているのです。
これから世界のどこを見ていたらいいかというと、イスラエルの神殿を再建し始めたらいよいよです。見ておいて下さい。

ダニエル 9:27 忌まわしいものの翼の上に、荒らす者（反キリスト）が現れる。そしてついには、定められた破滅が、荒らす者の上に降りかかる。

翼は神殿の頂の事。かつてサタンは、イエス様を神殿の頂に立たせて言いました。「さあ、ここから飛び降りてごらん。」「私を拝んだら、全世界をあなたにあげるから。」反キリストは拝むんです。それで全世界を貰うんですよ。「飛び降りても守られるからやってごらん。」
イエス様はそれを全部、申命記の言葉で撃退しました。

荒らす者（反キリスト）が現れる。その時ものすごい苦しみを、特にイスラエルの人たちは受けて、全ユダヤ民族の 2/3 が滅びます。
第二次世界大戦の時、世界中のユダヤ人は 1500 万人いたんです。その内の 600 万人がアウシュビッツはじめホロコーストで殺されました。すなわち 1/3 が死んだんですよ。

ところが、患難時代には 2/3 と書いてあります。ゼカリヤ書に。そして、残り 1/3 がイエスをメシアとして信じると。あのヒットラーの迫害の倍。恐ろしい反ユダヤ主義・大弾圧が患難時代に来ます。
「我々を守ると言っていた者が、なぜ我々の 2/3 を殺すのか?!　我々はどこで間違ったのか?」という中で、イエスをメシアとして見出すのです。

患難時代の目的は、**ダニエル 9:24 それは、背きをやめさせ、**
背きはヘブライ語で「ペサー」。非常に強い罪・決定的反逆の言葉です。しかもここは「ハ ペサー」。
「ハ」はヘブライ語で定冠詞。英語の「The」。The 背き。背きの中の背き。「ある特定の、決定的な背きをやめさせるために患難時代がある」。

ユダヤ人も人間だから、私たち異邦人と同じように罪を犯しますが、そういう罪じゃなくて、神様に対する決定的な背きをやっている。それは、ユダヤ人のために来たメシアを拒否しているという事。
その背きをやめさせるために、患難時代があります。やめた時 3 日目に、地上再臨のキリストが来られるのです。これが、患難時代がある理由です。
イスラエルは霊的に回復すると、メシアと和解して、千年王国での素晴らしい時代が始まるわけですね。

ここから 1 つ言える事は、携挙はいつあるか分からないんです。携挙はある事が実現したら起こるけど、その事は地上で見えない。

キリストが昇天された目的が、**ヨハネ 14:2 わたしの父の家には住む所がたくさんあります。そうでなかったら、あなたがたのために場所を用意しに行く、と言ったでしょうか。**
イエス様は何のために昇天されたのか? 私たち一人ひとりのために天に場所を備えるためです。

ヨハネ 14:3 わたしが行って、あなたがたに場所を用意したら、また来て（空中再臨）**、あなたがたをわたしのもとに迎えます。**（空中まで引っ張り上げて、一緒に天国に連れて行きます。）**わたしがいるところに、あなたがたもいるようにするためです。**これは携挙についての教えです。

これを見ると、いつ携挙があるかが分かります。イエス様が私たちのために場所を用意したら、し終えたらなんですよ。でも、これは天国でなさっている事だから、地上でなんぼ見ても分からへんねん。
もしかしたら今日、あと 5-6 分で完成したら、その時ヒュって、もう私たちは行きます。栄光の体ですよ。
「ちょっと、あのイケメン、誰?」「高原兄。」みたいなね。そうなっているかもしれませんね。

携挙の後に患難時代が来ます。携挙が来るタイミングは天での事だから、地上では分かりません。
携挙に前兆はない。しかし、患難時代には前兆があります。それは、反キリストがイスラエルと平和条約を結んで、神殿のいけにえを再開させる事です。

という事は、イスラエルが存在していない限り、患難時代は始まらない。反キリストが契約を結ぶ相手であるイスラエルが地上に存在していない限り、患難時代は来ません。
今イスラエルは存在しているでしょ。1948 年 5 月 14 日に 1900 年振りに国を造った。その段階から、患難時代は非常に近くなっているんです。そういう時代に私たちは生かされているという事ですね。
患難時代の後に千年王国があり、千年王国の後に新天新地が始まります。

患難時代以降の事を、寓話・物語で説明した人が 2 人います。
①トールキン（1892-1973）が書いた『指輪物語』。『ロード・オブ・ザ・リング』という映画になったのでご覧になったかも分かりませんが、あれは黙示録から千年王国・新天新地に至るスペクタクル注解書なんです。ものすごく深い。1 度、教材に使ってやりたいくらい。

②C・S・ルイス（1898-1963）の『ナルニア国物語』。これも黙示録講解です。黙示録最後の新天新地に至る事が、物語風にずーっと出て来るんですね。
ナルニア国物語の最後、エンディングの言葉、ご存知ですか?「それは、でも波乱万丈、冒険物語。手に汗握るワクワクドキドキ。」その後で、「さあ、いよいよ新しい国です。今までの国の話は、これから始まろうとしている国と比べるなら、本で言ったら前書きにすぎません。」「前書きにすぎません」と。
「これから始まる新しい国は、1 ページ繰る毎に、前のページを忘れさせてしまうような、素晴らしいページが永久に続いて行くような世界なのです。」これで終わる。

C・S・ルイスという人は何なんですか、これ。天才やね。僕は C・S・ルイスが大好きで、個人的には「ルイス兄貴」と呼ばせて頂いてるんですが、ほんまに我が意を得たりの文章がいっぱいありますわ。
そういう素晴らしいものが、私たちに準備されています。

では、私たちはどうしたらいいでしょう? その決定的瞬間に向かってどんどん近づいている。
人生を逆算して、それではいかに生きるべきか? 恵みの時代はいつまでも続かない。

なぜ終末論について語るのか? 仕事って、締め切りがないと終わらないと思いませんか? 納期があるから仕上げる事が出来る。学生は提出期限があるからレポート書けるんじゃない?
永久に今のまま続くんじゃなくて、もうカウントダウンが始まっている。だったら、1 回しかない人生を何に使ったらいいんだろう?

悔いなく人生を生きるためには、永遠の世界に入っても意味を失わない事に人生を使うべきです。
地上で、世の人から一時的にチヤホヤされるという事に人生を使うんじゃなくて、神の前に立った時に「あなたは良い忠実なしもべだった。良かった。あなたがした事は永遠に評価されて、あなたは国を受け継ぐ事になる。」

価値を失わない事に人生を再設計する動機付け。これこそは、終末論を学ぶ１つの理由ではないかなと思います。

^^^ ^^^^ ^^^^ ^^^^ ^^^^ ^^^^ ^^^^ ^^^^ ^^^^ ^^^^ ^^^^ ^^^^ ^^^

どうぞ、イエス様を信じて下さい。心からお勧めしたいと思います。
＊動画は YouTube で**「HCA 東住吉キリスト集会」**検索。ぜひ見て下さい。
＊ラジオ番組**「聖書と福音」**（15 分）も是非どうぞ。スマホでいつでも聞けます。YouTube もあります。

動画筆記：Rumi